平成 25 年度　第 1 回日本生物物理学会運営委員会議事次第
日時：2013 年 2 月 9 日（土）13：00～
場所：新大阪丸ビル本館 4 階　401 号室
出席者：難波、石島、有坂、須藤、高田、高橋、瀧ノ上、寺北、出村、永井、野地、根岸、林、南野、中村、七田、山下、片岡、垣内

報告事項：

1.　平成 25 年度年会準備状況（七田・山下）：**報 1**

七田年会実行委員長および年会実行委員の山下高廣氏から、年会準備状況が報告された。一般発表はすべてポスターで、25 のシンポジウムを行う。すべてのシンポジウムについて内容が決まった。総会は法人化の説明のために例年より 30 分長い 1 時間 30 分とする。このためプログラムを全体的に調整し、会場費約 20 万円が追加出費となった。参加費等は郵便振替もしくはクレジットカードで支払いを受け付ける。郵便振替口座は中西印刷が、クレジットカード用の銀行口座はエーイー企画が管理している。ランチョンセミナーは前回の運営委員会後から引き続き企業に募集しており、広告展示も年明けからエーイー企画と協力して募集を開始した。予稿集 PDF 版は、操作性を高めるため演題名等にリンクを貼る予定である。年会プログラムを電子媒体で見るためのアプリケーションの導入を、年会収支が赤字にならないよう工夫した上で検討している。

2.　平成 26 年度年会準備状況（出村）：**報 2**

出村委員より、札幌で開催される北海道年会の準備状況の報告があった。開催日時が物理学会（物性・量子）と重ならない 9 月 25 日（木）-27 日（土）に決まり、会場として札幌コンベンションセンターを予約した。3 月中に実行委員会を立ち上げる。業務委託については検討中。

3.　出版委員会報告（石島）：**報 3**

中村会誌編集委員長から編集委員会の報告があった。BIOPHYSICS は、昨年度の掲載数は 20 編だったが今年度は投稿数がまだ 1 編なので投稿数を増やしたいこと、Editors' Choice Award の新設、アジア・オセアニア地区との連携強化について報告された。また、第 2 回 BIOPHYSICS 論文賞推薦論文を募集中で、会員個人・支部からの積極的応募が呼びかけられた。

引き続き、石島出版委員長から HP 編集委員会の報告があった。学会ホームページにカレンダー機能を加えたことで、学会ニュースの研究助成や公募の締切日程が把握しやすくなったこと、研究紹介ページは 148 の分野の内 60 分野の記事を掲載でき、啓蒙として大きな効果を出していることが報告された。現在プラグインに無償で対応いただいている研究紹介ページの更新に対して、最大 10 万円の予算が提案され、承認された。

次に、邦文誌 PDF 化について、石島出版委員長から報告があった。「企業 PR ページ」への執筆を年間契約企業に限らず応募した結果、3 月号にオプトライン、5 月号にオリンパス、7 月号にニコンが原稿依頼を承諾しており、その他に浜松ホトニクス、アンドール、ヘルツ工業から承諾を得た。これは、昨年の名古屋年会での「学会誌 PDF 化に向けた企業との意見交換会」の効果であると考えられる。次回の京都年会の二日目の午前中に「企業との意

見交換会」の機会を設ける方向に決まった。
邦文誌 PDF 版のダウンロード数は 53 巻 1 号で約 500 件であった。来年 1 月の冊子体廃止後も、機関会員（図書館）についてはオンデマンド印刷で冊子体配布を継続予定であり、希望する会員への送付（有料）も検討している。中村編集委員長と難波会長の連名で冊子体廃止のアナウンスを 4 号に掲載予定で準備中である。

4.　男女共同参画・若手問題検討委員会報告（有坂）
有坂男女共同参画・若手問題検討委員長から、若手奨励賞の女性の応募が少ないことが問題提起された。まずは具体的な問題の洗い出しのために、会員の女性比率を調査することになった。また、学生向けの賞（ポスター賞など）を設けることについて出版委員会でも同様の提案があったため、導入の方向で準備を進めることになった。
京都年会でのランチョンセミナーは、前年の「博士号を取得して多様なキャリアパスを手に入れる」を引き継いだ内容に決まった。
学会ホームページの「理系女性のかがやく未来」という項目に掲載することを目的とし、頑張っている若手研究者や女性研究者、育児を手伝う男性研究者などにスポットを当てた企画を学会誌に 4 か月に 1 回程度のペースでページを割り当ててもらいたいと依頼があり、承認された。男女共同参画・若手問題検討委員会での企画名称については今後検討を進めていく。
若手奨励賞審査員については、これから候補を挙げて検討する。

5.　男女共同参画学協会連絡会報告（有坂）: **報 5**
1 月 8 日に開催された男女共同参画学協会連絡会について有坂委員長および根岸委員より報告があった。先日実施された第 3 回大規模アンケートで、学会員の協力により生物物理学会は非常に回答率が高かった。今後は男女共同参画・若手問題検討委員を中心に解析ワーキンググループとして携わっていく。
また、12 月 23 日に株式会社リバネス主催で開催された「サイエンス・キャッスル in 関西」および 3 月 16 日 17 日に男女共同参画学協会主催で開催される「女子中高生のための関西科学塾」に、生物物理学会の PR グッズを提供した。3 月 17 日に東京で開催されるリバネス主催の「サイエンス・キャッスル in 東京」ではポスター展示とハプティクスを用いたタンパク質バーチャルリアリティ体験を実施する。

6.　会員除籍と会員数の報告（神取、政池、須藤）: **報 6**
会員状況の推移について須藤委員より報告があった。12 月 31 日の会費納入状況を確認の上、正会員 72 名、学生会員 127 名の合計 199 名を除籍した。また、督促により正会員 4 名が会費納入し、除籍を免れた。会員数（特に正会員）は少しずつ減少傾向にある。原因として年齢層が上がったことによる退職者数の増加が考えられるが、年齢ごとの推移については検討できていない。

7.　選挙システムの導入について（神取、政池、須藤）: **報 7**
WEB 選挙システムの導入について須藤委員より報告があった。学会誌の印刷体廃止に伴い、選挙の WEB 化を検討している。システムの信頼性については、システム制作会社と学会と

中西印刷の三者で 2 月 22 日に打ち合わせを行うことが決定しているため、今後の連絡を密に取ることで不安を解消する方向である。
また、会員名簿について、学会誌印刷体の廃止後の発行形式について検討する（印刷を続けるか、PDF にするか等）必要性について指摘があった。2 月 22 日の打ち合わせで中西印刷に会員管理システムの機能拡張で会員検索システムを実装できないか確認することになった。

8.　平成 26・27 年度学会委員候補者推薦状況報告（南野）: **資料なし**
3 月 1 日締切で実施中の平成 26・27 年度学会委員候補者推薦状況について、南野委員から報告があった。2 月 9 日現在 13 通の推薦が届いている。学会委員候補者の推薦が少なかった場合、運営委員会で補充選挙を行なう必要があるため、できるだけ多くの候補者が推薦されるように周囲への呼びかけが依頼された。

9.　IUPAB・ABA 関連報告（野地）: **報 9**
IUPAB・ABA 関連について野地委員より報告があった。IUPAB で永山國昭氏がヘッドを務める Applications of Biophysics（生物物理学的な手法の応用を発信していくワーキンググループ）について、生物物理学会員にも積極的な参加を呼びかけており、学会誌にも案内文を掲載する。IUPAB が出版している Biophysical reviews において、中村春木委員が Computational Biophysics の Special issues にゲストエディターとして参加した。次期 IUPAB 会長として中国の Zihe Rao 氏が選出された。
5 月に済州島で開催される ABA（Asia Biophysics Association）大会では、Keynote スピーカーとして柳田敏雄氏、Invited スピーカーとして七田芳則氏、原田慶恵氏、沈建仁氏、若手スピーカーとして過去の若手奨励賞受賞者である村越秀治氏、古賀信康氏を推薦する。ワシントン大学に勤務する古賀氏の旅費を ABA 日本支部の予算から一部（10 万円）を支援することになった。
2014 年、オーストラリアのブリスベンで開催される IUPAB Congress での 7 つのメインテーマおよび 28 のシンポジウムでのテーマリーダーおよび副議長について分野別専門委員に候補者を募集したところ多くの候補者が推薦された。候補者の最終決定は野地委員の判断で推薦することが決まった。

10. 賞・助成金推薦委員会報告（難波・石島）: **報 10**
賞・助成金の候補者推薦の手続きに関して難波会長から報告があった。会員から推薦依頼がなかった場合、運営委員会で候補者を推薦することがあるが、今後は、運営委員会で推薦可否を審議した上で候補者に書類作成を依頼することとする。
藤原賞に石渡信一氏、山田科学振興財団に盛田伸一氏、黒田裕氏、鈴木誠氏を推薦したことが報告された。また、学会から推薦した月原冨武氏が内藤記念科学振興賞を受賞したことが報告された。

11. 支部報告（支部長代理）: **報 11**
北海道支部について、出村委員より 3 月に開催した支部例会では 19 件の口頭発表があったこと、支部講演会を 7 回開催したことが報告された。2012 年度は約 26 万円の赤字で、2

年度末の残高は約 208 万円である。
東北支部について、林委員より 12 月に東北支部会を開催し、支部のホームページ・メーリングリストの立ち上げを検討中であることが報告された。支部会に講師を呼ぶにあたり、北海道支部や東北支部は交通費が多くかかるため、支部費増額の要求があった。
関東支部について、2012 年 3 月に第一回関東支部会を開催し、参加者は 84 名であったこと、収入約 26 万円、支出約 13 万円で、繰越金は約 13 万円であることが難波会長より報告された。
中部支部について、須藤委員より 2 月 19 日に支部会開催予定であるため現時点での支出は 0 円、収入は繰越金と支部費であることが報告された。支部会では約 12000 円支出予定。物理学会での生物物理分野の発表件数減少を案じて、例年 3 月に開催する支部会を物理学会とずらし、2 月開催としたことが報告された。
中国四国支部について、難波会長より支部活動報告があった。2012 年度は約 1 万円の黒字で、繰越金は約 40 万円。支部大会は 2012 年 6 月に山口大学で開催され、参加者 42 名、発表演題数は 28 件であった。次回 5 月に開催される支部大会へ、活動視察・法人化説明もかねて垣内氏が出向すること、および出張旅費を学会運営費から工面することが、難波会長より提案され、承認された。
九州支部について、難波会長より 2012 年度は支部費 6 万円の収入のみで、繰越金約 249 万円であると報告があった
各支部報告を受けて、支部によって残高（繰越金）額に差があるが、今後は年度内に活動がなかった支部については翌年度の支部費を配当しないことも検討してはどうかという意見があり、承認された。

12. 分子科学研究所学会等連絡会議構成員の推薦について（難波）: **資料なし**
これまでに引続き寺嶋正秀氏を分子科学研究所学会等連絡会議構成員として推薦したことが難波会長から報告された。

13. クリアファイル作成状況報告（野地・林）: **報 13**
クリアファイル作成状況が林委員より報告された。女子向けにタンパク質のキャラクターを新たにデザインし、学生らの協力のもと、各キャラクターに名前を付け、解説書を作成した。この解説書は今回作成したキャラクターをデザインしたクリアファイルに挟んで配布する予定。

議題：
1. 平成 24 年度決算報告書（案）の承認（高田）: **議 1**
高田彰二委員より 2012 年度決算が報告された。来年度からの法人化に伴って、今年度より、二種類に分かれていた一般会計・特別会計が一つにまとまる、年会と学会本部で分かれていた会計が一つにまとまる、そして 2 月末の確定申告までに青色確定申告用の様式に（税理士の指導のもと）修正する、といった 3 点が大きく変更になる。
2012 年度会計全体では、約 19 万円の赤字であった。今回、高田委員から報告された決算は委員会によって承認された。

2.　法人化について（片岡・難波）：**議 2**

生物物理学会法人化に関して、現在も法人化ワーキンググループを中心に議論中であることが難波会長より報告された。具体的な方針については次回の運営委員会で報告する。また、京都年会で開催される総会に向けて準備を進めている。

3.　若手奨励賞の応募条件について（難波）：**議 3**

若手奨励賞の応募条件について難波会長から議題が提案された。現在、若手奨励賞の応募者に BIOPHYSICS 誌への投稿を推奨している。この背景には BIOPHYSICS 誌への投稿数の伸び悩みと存続の危機から、2010 年に開催された出版委員会および運営委員会で BIOPHYSICS 誌への投稿を若手奨励賞応募の条件として義務づけることが提案され、2011 年の出版委員会および 2011 年 4 月の運営委員会で「3-5 年後を目指して」という年限つきで承認されたことがあった。これに対して若手奨励賞に足かせを課すのはよくない、という問題提起を踏まえて、BIOPHYSICS 誌のプロモーションと若手奨励賞の関係についての再検討が難波会長より提案された。

学位取得後に分野を変更した研究者が若手奨励賞に応募するための障壁となること、また、業績数が十分でない若手研究者は自分の論文をトップジャーナルに投稿したい気持ちが強いことなどが指摘された。また、BIOPHYSICS 誌のプロモーションに関しては、業績の少ない若手研究者から吸い上げるのではなく、業績が潤沢にあるベテラン研究者に負担を強いるべきではないか、との意見も出た。一方、今回加えようとしている条件では、若手奨励賞応募者が第一著者である必要はなく、さらに、原著論文である必要もない点から、生物物理学会を盛り上げたいという意味では、若手奨励賞応募者に BIOPHYSICS 誌への過去の投稿を義務付けるのはよいアイディアではないか、という意見もあった。

議論が継続中であることを受けて、難波会長から学会ホームページに現在記載されている「2014-2016 年から施行」の文言の修正が提案され、承認された。この議題については、さらに問題点の洗い出しを行い、今後も継続的に議論していく。

4.　年会余剰金の取り扱いについて（難波）：**議 4**

年会余剰金が出た場合、支部へ還元するべきかどうか議論がなされた。繰越金が多くある支部については還元しなくてもいいのではないかとの意見があった。また、各支部へ余剰金を配当する構図は「不透明な会計管理」と見なされ追徴課税される恐れがあることも指摘されたため、早急に結論を出すのは避けることとなった。

連絡事項：

1. 次回運営委員会日程について（難波）

2013 年 4 月 13 日（土）13 時～

（11 時より出版委員会、男女共同参画・若手問題検討委員会開催）